

【ものづくり 人づくり 地域づくり】

夏こそ暮らし見直し

# あなたの家の電気料金 見直してみませんか？

電気ご使用料のお知らせ		東京電力からのお知らせ	
ご使用場所 つくばみらい市	ご契約種別 従量制	・左記電気料金は、クレジットカードによるお支払いとなります。	
25年 6月分 請求期間 5月28日～6月24日 (28日間)	ご契約 60A	・クレジットカード会社の規定により、上記以外の方法でお支払いいただく場合がございます。	
ご使用量 288kWh	当月指示数 8867	・当社は請求書および領収書を発行いたしませんので、クレジットカード会社から届く明細書をご覧ください。	
請求予定金額 8,427円	前月指示数 8579	・クレジットカード会社の締切日と当社の締切日の関係により、2ヶ月分の電気料金があわせてご請求となる場合がございます。	
うち消費税等相当額 401円	差引 288		
基本料金 1,638円00銭	計器番号 (印) 895		
電力料金 2,266円80銭	取替前計器番号		
上記1段料金 4,231円92銭	計器番号 (下3桁)		
料・燃料費調整額 371円52銭			
内工不完備補償金等 114円			
電気局別仕宅割引 -194円96銭			
合計 8,427円			

東京電力株式会社  
電ヶ崎支社 (313)  
0120-995-331

●現在の設定は、何アンペアですか？

- ・まずは年間の電気代を書き出してみましよう。
- ・東京電力から毎月届く「請求書」に注目。
- ・6月分はいくらでしたか？5月分は？
- ・東京電力のホームページ上で、料金設定のシミュレーションができます。
- ・余計な電気代を払わないために、一度チェックしてみましよう。

●月にいくらを超えると要注意？！  
わが家のこの夏の使用料の目標設定を。

まずは生協職員の間で、電気料金の明細をみんなで見直ししました。

「共働きで日中留守なので月 8,000 円くらい」  
「室内でペットを飼っているとどうしても日中エアコンを使い、10,000 円超えてしまう」  
「一人暮らしなので 5,000 円かかりますよ」

家族の人数や日中、夜間の電気の使い方によって異なりますが、「まずは月に 10,000 円は超えないようにしましょう！」というところを第一目標にしてみました。

電気料金の目標額を決めて段階的に減らしてみたいかどうでしょうか？

●夏を乗り切る節電アイデア募集！

常総生協の「春の組合員アンケート」では、


- ・「電気がまをやめて、ガスで焚いています。もし残ったら冷凍、おにぎり、チャーハンに」
- ・「冷蔵庫にカーテンを付けて、開けても冷気が逃げないようにしています」
- ・「こまめにコンセントを抜きます」
- ・「アンペアを下げました」

などが寄せられました。


アンケート募集当時は春先の寒い時期でしたので、この夏みなさんのご家庭で実施中の「節電の工夫」をぜひ教えてください。お待ちしております！

総代会報告会・開催中です ～ぜひお近くの会場までお気軽にお越しください～

暑い最中ですが、みんなでワイワイ開催中！



7/9 土浦・六中地区



7/10 守谷・生協本部

【今後の開催地区】

- 7. 16 (火) 利根町コミュニティセンター
- 7. 17 (水) つくば・小野川公民館
- 7. 18 (木) 岩井公民館  
流山生涯学習センター  
松葉コミュニティセンター
- 7. 19 (水) 我孫子・アビスタ  
取手・ゆうあいプラザ

# 6/23（日）第53回茨城県「母親大会 in守谷」

## 特別分科会（常総生協司会進行）

### 「子どもを放射能から守るために ～いま、わたしたちにできること～」

#### 特別分科会・特別決議

1. 関東一円に広がる原発被曝地に対して「原発事故子ども・被災者支援法」の適用を求める。
2. 被曝影響の早期発見・早期治療を実現すべく、子どもの定期的・継続的健康診断を実現させる。
3. 学校検診に放射能影響検診を含めスクリーニング体制を整えると共に、その後の治療を可能にすべく、医療体制を整備させる。
4. 福島原発事故で「原発といのちは共存できない」実態を目の当たりにした今、東海第2原発をはじめ、国内のすべての原発の廃炉と原発の輸出禁止を求めていく。
5. 原発事故被害に関し、東京電力と国に責任を認めさせ、必要かつ十分な賠償を求める。



参加者を前に挨拶をする、10名の各地区の活動団体の代表者の皆さん



特別決議文を読み上げる  
村井理事長



左から脱原発ネットワークつくばの小張さん、原発いらぬ牛久の会の中川さん、放射能汚染から子どもを守ろう@常総の青木さん



左から放射能汚染から子どもを守ろう@つくばの川村さん、放射能汚染から子どもを守ろう@龍ヶ崎の加藤さん、常総生協の活動を報告する牧野さん（我孫子市）



放射能から子どもを守ろう関東ネットの稲垣さん。司会は常総生協原発委員会から茂田さん（龍ヶ崎市）と高橋さん（つくば市）



教室いっぱい集まった参加者の中には、学生？とも思われる若い女性もたくさん参加されていました。

6/23に守谷で「茨城県・母親大会」が過去最高ともいえる来場者数（午前、午後合計1200名以上）を集め、開催されました。午前中の分科会では子育てや憲法など13の分科会が行われ、常総生協が司会進行を務めた特別分科会「子どもを放射能から守るために」では小川仙月さん、原口弥生先生のお話、茨城県内各地域の活動団体より、これまでの報告、提案、意見交換が行われました。当日は会場いっぱいの90名を超える方が参加され、今なお放射能への関心が高いことが感じられました。

10団体の代表者からは各団体での講演会や勉強会の実施や汚染実態調査、脱原発や健康調査のための取り組みなどについて報告があり、われわれ市民が積極的に学ぶ「市民科学」が重要であると提言がありました（報告をされた10団体うち7団体は常総生協の組合員が報告をされていました）。

参加者からも「尿検査などの健康調査はどこで?」「一刻も早く原発をなくす決断をさせる活動をしていくことが大事」など相談や提案などがありました。

最後は小川さん、原口先生からもアドバイスをもらい、参加者全員で分科会特別決議を取りまとめ、県知事に提出することとなりました。

## 「安倍内閣は世界に原発を販売して 200 兆円市場をもくろんでいる」 助言者：小川仙月さん（原発事故問題研究者）



原発がなくても電気が足りることは昨年で実証され、原発立地の自治体が原発のない街づくりを始めているのに、なぜ政府は原発再稼働を急ぐのか？それは原発輸出のために日本国内をショールーム化させたいから。安倍総理自らがトップセールスとして世界各地で商談中。原子炉1基5千億なら、現在商談中が32基で16兆円、2030年には400基目標で200兆円をもくろんでいる。そのためには国内で動かして安全性を訴えていかなければならないからである。

原発促進派にとって邪魔者は2人いる。ひとりが原子力規制委員長の「田中俊一氏」。委員会が指摘した非常用電源ケーブルに使用している「可燃ケーブル」問題の意味は大きい。年4,5回火災事故を起こしている東海第2原発を含め、国内13基の原子炉で使用、取り換えには膨大な費用が必要。主要なマスコミが再稼働の空気を作ろうと委員会を批判しているが、我々は彼らを守るべき。

もう1人は東海村「村上村長」。東海村以外でも脱原発すべきと立ち上がり、政治や経済に対する理念が高く、議論すれば彼ら（推進派）は負ける。村上村長は私たちや子ども達にとって奇跡的な存在。村上氏は出馬を表明していないが、今年9月の東海村村長選は重要な局面になる。



原子力規制委員長の田中俊一さん（左）と東海村・村上村長（右）

## 「長期戦ということを考え、出来る範囲で出来ることをやっていくことが大事」 助言者：原口弥生さん（茨城大学 人文学部 准教授）



昨年の母親大会でお米、小麦、牛乳に気を付ける「学校給食」をテーマに提言し、県議会に市民団体と共に請願提出。その後、県内2市で給食モニタリングや他県でのWBC検査や尿検査でほぼ安心できる結果が得られたが油断は禁物。継続して見ていく必要あり。

昨年6月に成立した「支援法」は、政権交代により放置状態。今年3月に復興庁が出した「支援施策パッケージ」には、ほぼ目新しい策はない。支援法の窓口は復興庁だが、健康問題は環境省。彼らは福島県以外の健康調査は不要だという。それは福島県の結果と、群馬・宮城・岩手・栃木の県専門委員会の見解から。しかし、茨城県では委員会設置はなく見解も出ていないが、市民の請願の効果もあり、茨城県内の市長会・町村長会や自治体が「支援対象地域に」と請願を出していることが他の県とは違う。福島の甲状腺細胞診は現在12例。予想していたよりも年齢が上の層である北茨城でも健康調査を実施予定。国への訴えとしては強いはず。

今後は「支援法を通して健康調査の必要性を訴え、自治体が財力に関係なく実施する」「もっと県議会や町村長会で決議したことを復興庁・環境省へのアピール」「市民による独自の健康調査や線量測定の実施とデータ蓄積」、長期戦ということを考え、出来る範囲で出来ることをやっていくことが大事だと考える。

放射能から子どもを守ろう関東ネットの稲垣さんと大石副理事長は午後の全体会でも県内の子どもに健康調査の実施、東海第2原発廃炉についての「活動報告」を行いました。



全体会では落合恵子さんの記念講演が行われました



【8月は平和を考える月間】 ※(5/28～6/2) つくばで開催されました「親子で知ろう戦争と暮らし展」で紹介されたお話を順次掲載します。

## やっぱり平和が大事。そして協同の社会を。

語り手 丸町芳夫さん(守谷市在住組合員)

終戦の時、私は2歳でした。

家族が大変な思いをしながら、私を育ててくれました。父親が40歳ぐらいの時、船大工として軍属徴用されました。

軍艦には船大工を置かなければならなくなっていました。父親は昭和18年3月に召集され、私は11月に生まれました。

今から10年前に有事立法が通り、戦争が始まったらすべての港は自衛隊と米軍が勝手に使えるようになりました。軍に必要な物や人はすべて徴集できるという法律です。

トラックの運転手や飛行機など、今でも法律的には可能で、父親と同じように徴用されることになります。



父親はパラオ諸島に連れて行かれ、お袋の話だと気候も食べ物もよく、とてもいいところだと言っていたそうです。

しかし、昭和19年の後半からは、食べ物がなくなり、餓死する兵隊がたくさん出てきました。日本の軍隊は食料を現地調達するという方針だった。そこではどのような事が起こるかと言うと、民家に押し入り食料を奪い取ることになるわけです。

欧米軍はどんどん食料を先に現地に送り、後から兵隊が行くというやり方で、日本とは全然違ってました。だから日本軍が進駐した朝鮮、中国、ベトナム、マレーシア、カンボジアは悲惨な状態であった。



昭和20年、帰還した仲の良い兵士から「ほとんどの兵士は飢えて死んだ」と聞かされた。その兵士がどうして生きて帰ってこれたかと言うと食糧班だったから、と言うことです。

食料班(炊事班)は将校の食事を作り、将校は現地で別宅(妾の家)を持ち、食事を作らせた。

また将校はその別宅の床下に食糧を隠し生き延びた。軍の幹部や上の方までやっていたそうだ。一般の兵隊さんは餓死しているのに。障害をもっている子どもたちも人間扱いをされなかった。私は小学生の頃にお袋から戦争中の話を聞き、学校の教師になって戦争の姿を伝えていきたいと思いました。

当時お袋は42歳だった。それから生活は苦勞の始まりで、女も手に職をつけないといけないという事で電話交換手になった。昼間は電話交換手、夜は下駄の鼻緒をたてる内職をして私を大学卒業までさせてくれました。

苦勞をし、96歳まで生き、62歳過ぎから習字、陶芸、そろばん、木目込み人形等を習い、これまでがんばってこられてありがたいと言っていた。これからの子どもたちにそういう苦勞はさせたくない。



今、「憲法を変える」と言っているが、若い男の子は兵隊にとられ、年齢が高くても徴用されるので安心できない。

お袋は、その日のテレビ放送の最後に日の丸が流れるとスイッチをすぐ消していた。戦死して帰れなかった人たちを思うと耐えれなかったのだろう。お袋が常々私に「おれんちには、まだあやまりにきていない」と言い、「誰が?」と聞くと「天皇だよ」「過ちを犯したものはちゃんどあやまりに来ないと」「死んでしまつて、あやまらないで逝っちゃつた」とお袋はこだわっていた。私は、なぜうちだけ父親がいないのかなと思っていた。

昭和28年頃の小学4年生ぐらいから、なぜ戦争をするんだらうと考えた。

昭和29年の夏にお袋と東京に遊びに行った時、上野駅の地下道に浮浪児がたくさん寝泊まりしていたのを始めてみた。それを見て戦争に対して憤りを感じた。

今、「強い経済」、「世界に勝つ」と言っている人がいますが、勝つ人がいれば必ず負ける人がいるということです。

どうして勝たなければならないのか。どうして協同できないのか。世界が協同しながら暮らし、生きていくことを大切にしたいと思う。